

日興キャッシュリッチ・ファンド

運用担当者に聞く！ キャッシュリッチ企業の特質とその魅力



日興アセットマネジメント株式会社
リサーチアクティブチーム
運用担当者 板垣 佳秀

「日興キャッシュリッチ・ファンド」は、2005年以來の運用開始から11年目に入りました。当資料では、運用担当者に、キャッシュリッチ企業の特質や選別方法、今後の意気込みなどについて話を聞きました。

「キャッシュリッチ企業」の特質を聞く

一 キャッシュリッチ企業と投資環境の関係を教えてください。



キャッシュリッチ企業のパフォーマンスは、MBO*1やTOB*2が話題となった2010年や企業統治改革が叫ばれた2014年のようなファンダメンタルズ(基礎的条件)が見直される相場では、市場全体をアウトパフォームする傾向にありました。

一方、2005年から2007年頃にかけてのコモディティ相場や2012年後半の追加金融緩和を期待した相場のような、特定のテーマや主力株が上昇をけん引する相場では、市場全体をアンダーパフォームする傾向にありました。また、景気の回復局面などでは、有利子負債比率が高く、景気に敏感に反応する銘柄群などの株価の値動きが相対的に優位性を発揮する傾向

にあるので、キャッシュリッチ企業は相対的に厳しい環境といえます。

2014年の投資環境は、市場全体の株価水準が上昇した底上げ相場であり、株価水準が相対的に割安で、アベノミクスの中でROE(自己資本利益率)改善や企業統治(コーポレートガバナンス)などへの取り組みなどが注目された年であったことなどから、キャッシュリッチ企業にはベストな投資環境でした。

*1経営陣による公開買い付け *2株式公開買い付け

<当ファンドの基準価額とTOPIX(配当込)の推移>

(2005年4月15日(設定日)~2015年8月31日)

※グラフの起点を100として指数化



<当ファンドの基準価額(税引前分配金再投資ベース)とTOPIX(配当込)の騰落率>

	2005年*	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年*
当ファンド	35.5%	-3.0%	-12.6%	-30.0%	14.8%	4.5%	-9.7%	16.6%	57.1%	26.2%	6.5%
TOPIX(配当込)	42.0%	3.0%	-11.1%	-40.6%	7.6%	1.0%	-17.0%	20.9%	54.4%	10.3%	10.3%

* 2005年は設定時から2005年末まで、2015年は2015年8月末までの騰落率

※TOPIX(配当込)は、当ファンドのベンチマークではありません。※基準価額は信託報酬(後述の「手数料等の概要」参照)控除後の1万口当たりの値です。税引前分配金を再投資したとして算出した理論上のものである点にご留意ください。(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

■当資料は、投資者の皆様へ「日興キャッシュリッチ・ファンド」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

足元の運用状況を分析してみる

一 足元の運用状況はいかがでしょう。

2015年上半期の投資環境は2014年から変化が見られ、時価総額が相対的に大きな優良銘柄や売上高成長率の高い銘柄、株式指数採用銘柄を中心に、株価が多少割高な水準にあっても上昇したため、当ファンドが投資対象とする、時価総額が相対的に小さくキャッシュリッチで割安な銘柄群は冴えない展開となりました。

足元では、中国の景気減速懸念の高まりから株式市場は調整局面を迎え、株価も下落傾向にあったことから、相対的に割安と思われる銘柄への投資比率を高めました。



一 2015年下半期は、どのような展開を想定しているのでしょうか。

足元の投資環境を踏まえると、企業の業績見通しは保守的な内容になると想定されますが、保守的が故に、今後、業績見通しを上方修正する可能性があると考えています。需給面では公的資金などの株式購入ペースが落ち着くと思われることなどから、株式指数の構成比率が高い大型株中心の相場から、個別銘柄をより精査するステージに入ると想定しています。ただし、中国経済などの予想以上の悪化や中東などの地政学リスクなどには、留意が必要と考えています。

一 特に注目していることがあれば教えてください。



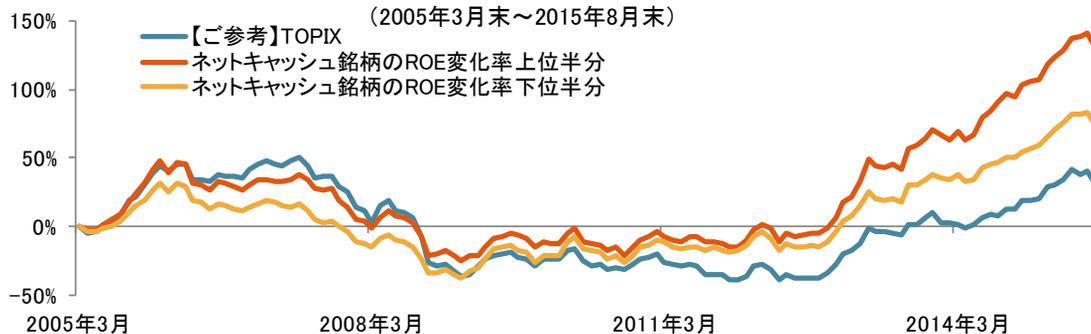
今年6月に株主総会を開催した多くの企業は、6月1日に適用開始となったコーポレートガバナンス・コードへの対応を示す「コーポレートガバナンス報告書」の提出が年末までに迫っており、その報告書の中で、政策的に保有する株式の売却(持ち合い株式の解消)やROE目標達成へのコミット(確約)が公表されるかなどに注目しています。

一部の会社は、ROEが5%未満であったり、配当性向が低いといったケースもあることから、これらへの対応が報告書の中でどのようにコミットされて実行に移されるのか、調査活動の中で探っていきたいと考えています。

【ご参考】 ROEが改善したキャッシュリッチ企業のパフォーマンスは、堅調に推移しています。

＜TOPIXとキャッシュリッチ企業のパフォーマンスの推移＞

(2005年3月末～2015年8月末)



TOPIX構成銘柄のうち、ネットキャッシュ銘柄*を抽出したうえで、ROEの年間変化率で順位付けし、上下2グループに分けてパフォーマンスを算出しています。

* ネットキャッシュ銘柄:「(現金預金+一時保有の有価証券など) - 有利子負債」がプラスである銘柄

※1年毎(3月末)にグループの銘柄入れ替えを行なっています。

※ROEの変化率は、データ時点とその1年後のROE(実績値)を比較しています。

※2015年3月末のグループ分けは、2015年8月末のROE(実績値)との比較による変化率の順位付けを基に行なっています。

【例: 2008年3月のグループ分けは、2008年3月末時点のTOPIX構成銘柄の中から抽出したネットキャッシュ銘柄の2008年3月末のROE(実績値)と2009年3月末のROE(実績値)を比較した変化率で順位付けし、上位・下位に分けたもの】

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

■当資料は、投資者の皆様へ「日興キャッシュリッチ・ファンド」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

どのようにして「キャッシュリッチ企業」を選別するのか

一 運用担当者ならではの「キャッシュリッチ企業」を選別する視点を教えてください。

主に3つの視点で、企業を見極めて選別しています。

1. 個別企業の独自の成長要因を見る

企業が合理的、かつ効率的な設備投資を実施しているか、効果的な企業買収や不採算事業からの撤退など、成長を追求する動きに出ているかどうかを見極めます。

2. 経営の変化を見る

経営者が交代するのであれば、余剰資金の適切な配分ができるかどうかといった戦略などを見ます。たとえば、増配や自社株買いなどの株主還元に向かっているか、あるいは、適切な成長戦略を立て、そこに合理的に資金を投じることができるのかなど、企業がこれまで以上に良い方向に向かっているかどうかを見極めます。

3. 設備や製品などの交換サイクル時に、その需要を取り込めるだけの人的資源や資金力があるかどうかを見る

たとえば、約20年前のバブルの時代(1990年前後)に建設された新築ビルに取り付けられた空調設備はいまだに利用されているものが多く、まもなく交換時期にあることから更新需要が見込まれます。今後、空調機器メーカーや工事会社などが、その恩恵を受ける可能性があります。

一 キャッシュリッチ企業に共通することがあれば、教えてください。

キャッシュリッチであり、かつ割安な企業は、規模別でみると中小型株が多く、比較的、決算説明会の開催や証券会社のアナリストの調査が行なわれていない企業が、まだ多いように思います。そのため、見過ごされている企業への調査活動を行なうことによって、超過収益が期待される隠れた優良銘柄を発掘することができる、と考えています。

最後に

一 最後に、投資家の方へのメッセージをお願いします。

キャッシュリッチ、かつ割安で、今後なんらかの良い変化が期待できる企業への投資は、派手さはないものの、安定的なリターンを積み上げていくことが可能であると思います。

当ファンドでは、引き続き、財務面で相対的に資金の余裕があり、手元資金(キャッシュフロー)を活用して事業拡大や効率化を図る、もしくは株主還元策を実施するなどの可能性が高い企業を発掘し、割安と考えられる局面をとらえて投資を行なっていきます。

「日興キャッシュリッチ・ファンド」が皆様の資産形成の一助となるように、今後とも努力を続けてまいります。よろしくお願いいたします。



組入上位5銘柄について（2015年8月末） - 1

エスベック（6859） 電気機器

◆時価総額 約271億円 ◆ROE* 6.3%

◆現金同等物* 約141億円 ◆PBR 0.75倍

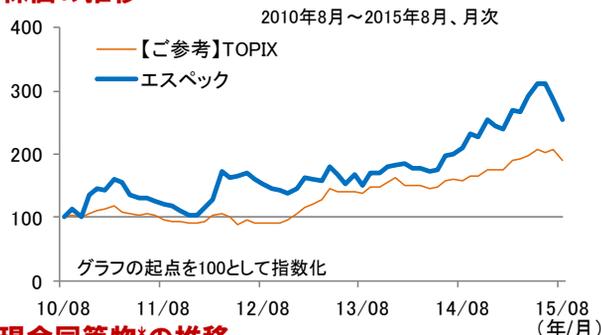
◆事業概要

環境試験装置（高温高湿試験装置）の世界トップメーカー。

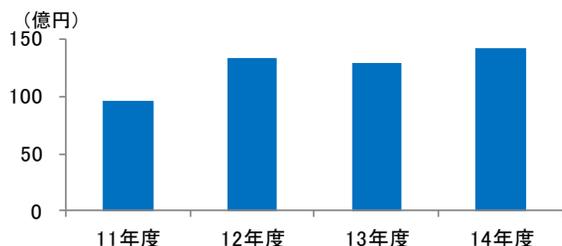
◆注目ポイント

- 顧客であるメーカーの研究開発投資や設備投資の拡大が見込まれるが、会社は今下期計画を減収減益としている。
- 主に円建てで販売しており、海外での価格競争力も強化されていることから、アジア地域での製品売上も好調に推移すると見込まれる。
- 今期の配当予想に基づいた配当性向は3割程度と平均的な水準で、総株主還元性向は平均を下回る水準にあり、今後の株主還元が期待される。

◆株価の推移



◆現金同等物*の推移



理研計器（7734） 精密機器

◆時価総額 約371億円 ◆ROE* 8.6%

◆現金同等物* 約100億円 ◆PBR 1.10倍

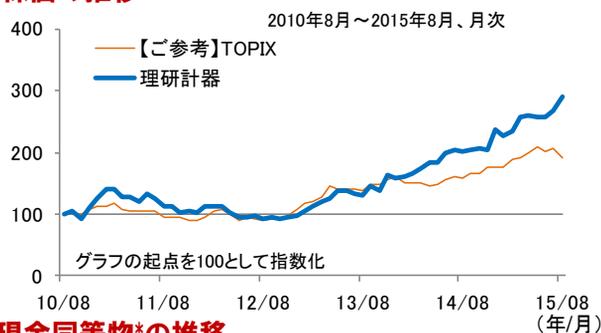
◆事業概要

産業用ガス検知器・警報機や環境測定製品などを製造。

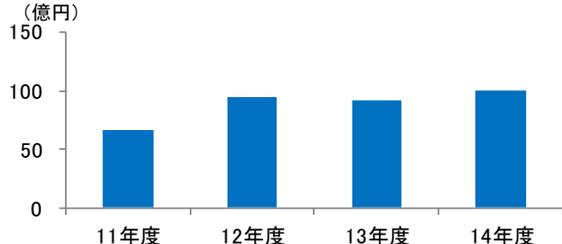
◆注目ポイント

- 安全化と省人化のニーズから検知器の需要が高まっており、業績は堅調に推移している。
- 今期の配当予想に基づいた配当性向が2割以下と低水準であることから、今後の株主還元強化が期待される。

◆株価の推移



◆現金同等物*の推移



* 現金同等物とROEは、各社の2015年3月期決算短信の数値。

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記は過去のものであり、将来の運用成果などを約束するものではありません。

※上記は2015年8月末現在の組入上位銘柄を掲載したものであり、当該銘柄について将来の保有を約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。また、当ファンドが組み入れる銘柄などのパフォーマンスを示唆するものでもありません。また、過去の株価推移を記載していますが、当該期間における継続保有を示唆するものではありません。

■当資料は、投資者の皆様へ「日興キャッシュリッチ・ファンド」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

組入上位5銘柄について（2015年8月末） - 2

ダイハツディーゼル（6023） 輸送用機器

◆時価総額 約264億円 ◆ROE* 10.0%

◆現金同等物* 約220億円 ◆PBR 0.82倍

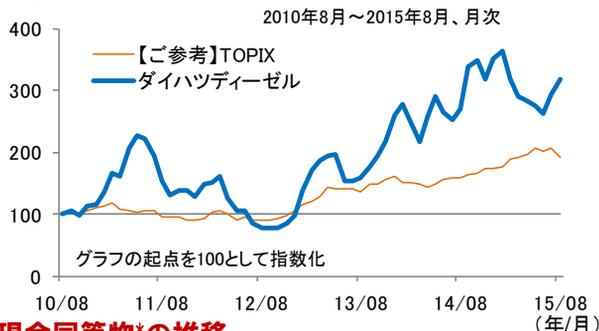
◆事業概要

船舶用ディーゼルエンジン発電用補機の大手。

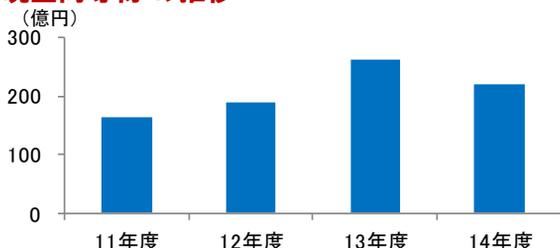
◆注目ポイント

- ・国内市場においては、造船会社の内製以外で高いシェアを持つ。
- ・過去に同社が出荷した発電機の補修部品が、最近の円安により、安価な他社製品から同社の純正部品に代わり始めていることから、収益性は高まっていると思われる。
- ・投資家に対するIR活動を強化していることに加え、今期の配当予想に基づいた配当性向は1割強と低水準であると考えられることから、今後の株主還元強化が期待される。

◆株価の推移



◆現金同等物*の推移



太平電業（1968） 建設業

◆時価総額 約522億円 ◆ROE* 5.4%

◆現金同等物* 約92億円 ◆PBR 0.85倍

◆事業概要

国内外の火力・原子力発電所をはじめ、各種プラント・環境設備などの建設工事・メンテナンス工事を手がける。

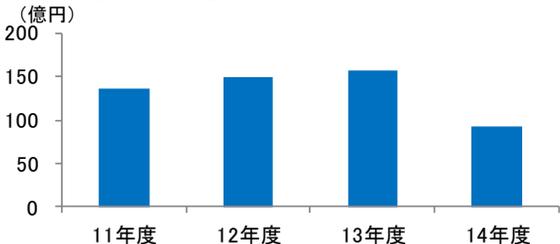
◆注目ポイント

- ・火力発電所の建設に伴う工事が増え、業績が回復傾向にある。
- ・今後、原子力発電所の再稼働に伴ない、原発の定期点検工事の売上が増加してくると思われることから、収益の回復モメンタム（勢い）が継続する見込み。
- ・今期の配当予想に基づいた配当性向が25%程度と低水準なことから、今後の株主還元強化が期待される。

◆株価の推移



◆現金同等物*の推移



* 現金同等物とROEは、各社の2015年3月期決算短信の数値。

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記は過去のものであり、将来の運用成果などを約束するものではありません。

※上記は2015年8月末現在の組入上位銘柄を掲載したものであり、当該銘柄について将来の保有を約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。また、当ファンドが組み入れる銘柄などのパフォーマンスを示唆するものでもありません。また、過去の株価推移を記載していますが、当該期間における継続保有を示唆するものではありません。

■当資料は、投資者の皆様へ「日興キャッシュリッチ・ファンド」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

組入上位5銘柄について（2015年8月末） - 3

ヨンドシーホールディングス（8008）小売業

◆時価総額 約773億円 ◆ROE* 8.1%

◆現金同等物* 約39億円 ◆PBR 1.49倍

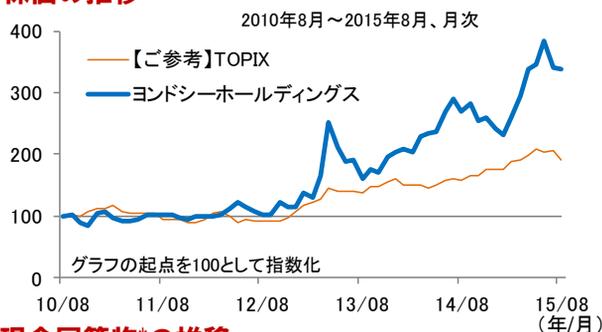
◆事業概要

ジュエリーを中心とするブランド事業、アパレル・バッグを中心とした企画・製造・卸売事業、小売事業を展開。

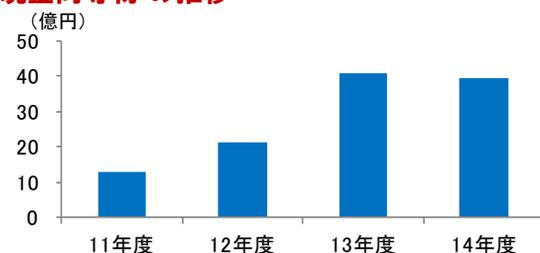
◆注目ポイント

- 女性の雇用・所得環境の改善や、昨年の消費税率引き上げ前の駆け込み需要の反動による落ち込みからの回復に伴ない、業績は今期、堅調に推移する見込み。
- 持ち合いの一部解消や自社株買い(下記、最近のトピック参照)を実施するなど、業績と財務の両面から、ROEの向上が期待される。
- 今期の配当予想に基づいた配当性向が26%程度と低水準なことから、今後の株主還元強化が期待される。

◆株価の推移



◆現金同等物*の推移



【最近のトピック】 自社株買いについて

- 2015年8月に、ヨンドシーホールディングス(以下、HD)の持分法適用関連会社である株式会社フジが保有するHDの100万株を、HDがTOBで取得しました。

* 現金同等物とROEは、2015年2月期決算短信の数値。

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記は過去のものであり、将来の運用成果などを約束するものではありません。

※上記は2015年8月末現在の組入上位銘柄を掲載したものであり、当該銘柄について将来の保有を約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。また、当ファンドが組み入れる銘柄などのパフォーマンスを示唆するものでもありません。また、過去の株価推移を記載していますが、当該期間における継続保有を示唆するものではありません。

■当資料は、投資者の皆様へ「日興キャッシュリッチ・ファンド」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

ポートフォリオの概要 (2015年8月31日現在)

<株式組入上位10銘柄>

(銘柄数 127銘柄)

銘柄	業種	比率	【ご参考】 時価総額	【ご参考】 自己資本比率	【ご参考】 現金同等物
1 エスベック	電気機器	3.29%	約271億円	75.1%	約141億円
2 理研計器	精密機器	2.63%	約371億円	79.4%	約101億円
3 ダイハツディーゼル	輸送用機器	1.82%	約264億円	43.8%	約220億円
4 太平電業	建設業	1.80%	約522億円	66.7%	約92億円
5 ヨンドシーホールディングス *1	小売業	1.78%	約773億円	75.1%	約39億円
6 サックスパー ホールディングス	小売業	1.55%	約621億円	63.7%	約51億円
7 ニトリホールディングス *1	小売業	1.55%	約1兆1,043億円	76.4%	約257億円
8 しまむら *1	小売業	1.40%	約4,137億円	86.6%	約239億円
9 泉州電業 *2	卸売業	1.40%	約199億円	55.0%	約124億円
10 日信工業	輸送用機器	1.35%	約1,096億円	61.8%	約354億円

※「比率」は、マザーファンドの純資産総額に対する比率です。

※当該銘柄の売買を推奨するものではありません。また、将来の組み入れを示唆するものでもありません。

※自己資本比率と現金同等物は、2015年3月期決算(*1は2015年2月期、*2は2014年10月期)の決算短信記載のデータです。

<資産構成比>

株式	94.4%
うち先物	0.0%
現金その他	5.6%

※当ファンドの実質組入比率です。

<国内株式組入上位5業種>

業種	比率
1 電気機器	22.2%
2 機械	10.3%
3 建設業	10.3%
4 小売業	10.2%
5 輸送用機器	8.2%

※「比率」は、マザーファンドの対組入株式時価総額比です。

※組入銘柄の評価額の合計を100%として計算したものです。

<市場別構成比率>

市場	比率
一部上場	86.0%
二部上場	9.8%
ジャスダック	4.2%
マザーズ	0.0%
その他	0.0%

<規模別構成比率>

時価総額	比率
500億円未満	38.7%
500億円以上 1,000億円未満	23.0%
1,000億円以上 2,000億円未満	10.5%
2,000億円以上	27.9%

※「比率」は、マザーファンドの対組入株式時価総額比です。

※組入銘柄の評価額の合計を100%として計算したものです。

ご参考: TOPIXと当ファンドのポートフォリオ指標

指標	ポートフォリオ	TOPIX
予想ROE	8.01	10.07
予想PER	15.52	15.63
実績PBR	1.05	1.34
予想配当利回り	1.69	1.83

※運用成果等について何ら約束するものではありません。
 ※東洋経済新報社の東洋経済業績予想データなどを基に日興アセットマネジメントが算出したものです。

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

■当資料は、投資者の皆様へ「日興キャッシュリッチ・ファンド」へのご理解を高めたいことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

ファンドの特色

1

株主価値重視への経営姿勢の転換などが見込まれる企業に投資します。

- 財務データ分析などの定量評価に加えて、企業訪問を中心としたボトムアップリサーチを行ない、株主価値を重視する経営姿勢への転換などにより株価の値上がりが期待される銘柄に投資します。
- 制度改正による企業再編の加速化など、外部環境変化による株主価値重視プロセスも勘案します。

2

わが国におけるキャッシュリッチ企業の株式を中心に投資を行ないます。

- 現金など流動性の高い金融資産※を多く保有する企業(=「キャッシュリッチ企業」)の中から、割安と判断される株式を主な投資対象とします。
※ 流動性の高い金融資産=(流動資産など一売掛債権など)一有利子負債
例) 現預金、売買目的有価証券など

3

バリュー株(割安株)に焦点を当てた独自の調査・運用体制により、株式市場において見過ごされている銘柄の発掘に努めます。

- 財務データ分析などの定量評価だけでなく、セクターアナリストおよびバリュー株(割安株)調査・分析に特化した“バリュースタイルアナリスト”による徹底的な取材などに基づく定性評価を行ないます。
- 証券会社や他の機関投資家などの調査対象に十分組み込まれていない企業に関しても、独自の調査を行なうことにより、投資価値を判断します。

お申込みに際しての留意事項

■ リスク情報

投資者の皆様は投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者(受益者)の皆様へ帰属します。なお、当ファンドは預貯金とは異なります。

当ファンドは、主に株式を実質的な投資対象としますので、株式の価格の下落や、株式の発行体の財務状況や業績の悪化などの影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。

主なリスクは以下の通りです。

【価格変動リスク】

株式の価格は、会社の成長性や収益性の企業情報および当該情報の変化に影響を受けて変動します。また、国内および海外の経済・政治情勢などの影響を受けて変動します。ファンドにおいては、株式の価格変動または流動性の予想外の変動があった場合、重大な損失が生じるリスクがあります。

【流動性リスク】

市場規模や取引量が少ない状況においては、有価証券の取得、売却時の売買価格は取引量の大きさに影響を受け、市場実勢から期待できる価格どおりに取引できないリスク、評価価格どおりに売却できないリスク、あるいは、価格の高低に関わらず取引量が限られてしまうリスクがあり、その結果、不測の損失を被るリスクがあります。

【信用リスク】

投資した企業の経営などに直接・間接を問わず重大な危機が生じた場合には、ファンドにも重大な損失が生じるリスクがあります。デフォルト(債務不履行)や企業倒産の懸念から、発行体の株式などの価格は大きく下落(価格がゼロになることもあります。)し、ファンドの基準価額が値下がりの要因となります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

■ その他の留意事項

- 当資料は、投資者の皆様へ「日興キャッシュリッチ・ファンド」へのご理解を高めさせていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。
- 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
- 投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。
- 分配金は、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した運用収益を超えて支払われる場合があります。投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。
- 投資信託の運用による損益は、すべて受益者の皆様へ帰属します。当ファンドをお申込みの際には投資信託説明書(交付目論見書)などを販売会社よりお渡しますので、内容を必ずご確認の上、お客様ご自身でご判断ください。

■当資料は、投資者の皆様へ「日興キャッシュリッチ・ファンド」へのご理解を高めさせていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

お 申 込 め 毛

商品分類	追加型投信／国内／株式
ご購入単位	購入単位につきましては、販売会社または委託会社の照会先にお問い合わせください。
ご購入価額	購入申込受付日の基準価額
信託期間	2022年4月15日まで(2005年4月15日設定)
決算日	毎年4月15日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	毎決算時に、分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。 ※将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。
ご換金価額	換金請求受付日の基準価額から信託財産留保額を控除した価額
ご換金代金のお支払い	原則として、換金請求受付日から起算して5営業日目からお支払いします。
課税関係	原則として、分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の差益は課税の対象となります。 ※課税上は、株式投資信託として取り扱われます。 ※公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度の適用対象です。 ※配当控除の適用があります。 ※原則として、益金不算入制度が適用されます。 * 2015年4月1日以降に開始する事業年度より、益金不算入制度は適用されません。

手数料等の概要

お客様には以下の費用をご負担いただきます。

<お申込時、ご換金時にご負担いただく費用>

購入時手数料	購入時手数料率は、3.24%(税抜3%)を上限として販売会社が定める率とします。 ※分配金再投資コースの場合、収益分配金の再投資により取得する口数については、購入時手数料はかかりません。
換金手数料	ありません。
信託財産留保額	換金時の基準価額に0.3%の率を乗じて得た額

<信託財産で間接的にご負担いただく(ファンドから支払われる)費用>

信託報酬	純資産総額に対して年率2.0196%(税抜1.87%)を乗じて得た額
その他費用	組入有価証券の売買委託手数料、監査費用、借入金の利息、立替金の利息など ※運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを表示することはできません。

※ 当ファンドの手数料などの合計額については、投資者の皆様がファンドを保有される期間などに応じて異なりますので、表示することができません。

※ 詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

委託会社、その他関係法人

委託会社	日興アセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第368号 加入協会: 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、 日本証券業協会
受託会社	三井住友信託銀行株式会社 (再信託受託会社: 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社)
販売会社	販売会社については下記にお問い合わせください。 日興アセットマネジメント株式会社 [ホームページ] http://www.nikkoam.com/ [コールセンター] 0120-25-1404(午前9時~午後5時。土、日、祝・休日は除く。)

投資信託説明書(交付目論見書)のご請求・お申込みは

金融商品取引業者等の名称	登録番号	加入協会			
		日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
エース証券株式会社	金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第6号	○			
SMBC日興証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2251号	○	○	○	○
株式会社SBI証券	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第44号	○		○	○
クレディ・スイス証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第66号	○	○	○	○
高木証券株式会社	金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第20号	○			
日産センチュリー証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第131号	○		○	
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号	○	○	○	
楽天証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第195号	○		○	○

(資料作成日現在、50音順)

■ 当資料は、投資者の皆様へ「日興キャッシュリッチ・ファンド」へのご理解を高めいただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■ 掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。